

## 胃切除後19年目に発症した残胃急性拡張症の1例

なが み はる ひこ  
長 見 晴 彦

キーワード：幽門側胃切除，胃アトニー，急性胃拡張症，糖尿病

### 要 旨

今回、我々は胃切除・胃十二指腸吻合後19年目に残胃排泄能の機能的障害による急性残胃拡張症例を経験した。症例は78歳女性で胃癌にて1998年幽門側胃切除・胃空腸吻合術を施行し術後19年目に左上腹部痛，腹部膨満感にて当院救急外来を受診した。来院時上腹部CT検査では残胃は食物残渣を多量に含み著明に拡張していたが胃内視鏡検査では胃・空腸吻合部潰瘍，癌再発など器質的病変による狭窄は認めなかった。自験例に対し胃ゾンデ挿入し絶食下，点滴加療を行ったところ残胃は縮小し食事開始後軽快退院した。今回，胃・空腸吻合部の器質的病変を認めなかった事から19年前の胃切除に伴う迷走神経胃枝切離による胃アトニーが主たる原因と考えた。また危険因子として合併していた糖尿病による胃壁内自律神経障害の影響に加え内服中のシタグリブチンが胃アトニー発症に関与した可能性が推測された。

### はじめに

胃切除後には手術の影響により様々な胃切除後障害が発生する<sup>1-3)</sup>。その中でも幽門側胃切除後の残胃排泄障害と残胃拡張は胃・十二指腸吻合部の狭窄を合併した場合や，幽門側胃切除後に過大な残胃サイズになった場合などの器質的あるいは形態的異常が存在する場合に発症する。今回，我々は胃癌術後19年目に胃切除後の胃十二指腸吻合部には器質的，形態的異常がないにもかかわらず残

胃排泄能の機能的運動障害及び残胃知覚神経鈍麻によって惹起されたと推測される急性残胃拡張症例を経験した。自験例のような病態による残胃急性拡張症例は文献で検索した限りでは2013年東京慈恵医科大学の河合ら<sup>4)</sup>の報告のみで極めてまれな疾患である。ここに症例報告とその要因について文献的考察を加えて報告する。

### 症 例

78歳，女性

主訴：左上腹部痛，腹部膨満感

既往歴：胃癌にて幽門側胃切除及びリンパ節郭清術を施行，糖尿病，高血圧

Haruhiko NAGAMI

島根大学医学部総合医療学講座大田総合医育成センター

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部総合医療学講座